

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第5回理事会 開催日：7月22日。出席者：藤本会長，他 25 名。

報告事項

1. 第4回理事会議事録確認
2. 編集委員会報告
3. 企画委員会報告
4. 高温原子炉開発に関する要望書提出の件
5. ヘンダーソン賞（特殊鋼に関する論文賞）
名称確定の件

クライマック・スモリブデン社よりの寄贈資金による論文賞名がヘンダーソン賞に決定した旨報告がなされ承認された。

6. 北海道支部長交替の件
退任 竹内秀夫君（大銅鋼板）
就任 中島長久君（富士製鉄，室蘭，副所長）
7. 昭和44年度秋季叙勲候補者推薦の件
富士製鉄，常任顧問 平世将一君
〃 〃 的場幸雄君

推薦の報告がなされ承認された。

8. 昭和44年度地方発明表彰候補者推薦の件
冷間ダイス鋼 愛知製鉄 鈴木三千彦君
スタンプ装置 川崎製鉄 千葉 田中富彦君ほか
鉄まくらぎ 川崎製鉄 水島・小高喜彦君
形鋼彎曲装置 川崎製鉄 葦合 河村圭三君
昭和44年度日本造船学会賞候補推薦の件
大型鋳鋼の靱性と質量効果（「鉄と鋼」第54年第8号）
日本製鋼 室蘭 小田豊久君，鈴木是明君

以上推薦の報告がなされ承認された。

協議事項

1. 共同研究会分科会主査解囑，委囑の件
ホットストリップ分科会主査
解囑 豊田 茂君（富士製鉄 常務）
委囑 高畑幸男君（日本鋼管 取締役）
（京浜製鉄所副所長）

2. コールドストリップ分科会主査
解囑 豊田 茂君（富士製鉄 常務）
委囑 吉田正人君（富士製鉄 生産管理部長）

3. 圧延設備分科会主査
解囑 豊田 茂君（富士製鉄 常務）
委囑 吉田正人君（富士製鉄 生産管理部長）

以上解囑ならびに委囑することを決定。

2. 研究委員解囑，委囑の件
解囑 青木宏一君（八幡製鉄 八幡製造所 特殊鋼
技術部長）
委囑 長島晋一君（八幡製鉄 東京研究所 第1基
礎研究室長）

以上決定した。

3. 明年度春季講演大会会場の件

社会的状況から，大学での開催が困難な状態であり，来春は大学を使用せず，経団連会館などのホールを使用

することになった。

4. 「鉄鋼製造法」編集委員会設置の件
鉄鋼製造法ならびにその編集委員会設置が決定した。

特別報告

1. 第4回国際自動制御連盟会議（IFAC）に出席して

共同研究会計測部会副会長

東大工学部教授 磯部 孝君

2. 国際鉄鋼協会第1回技術委員会に出席して
富士製鉄技術開発部副長 梅根英二君

企 画 委 員 会

第5回委員会 開催日：7月17日。出席者：俵委員長，他 12 名。

1. オーストララシヤ鉱山冶金学会に対し message
贈呈の件
上記学会の年次総会に対し会長名で message を贈呈
することを決定。

2. 1973年真空冶金国際会議共催，準備委員推薦の件
共催することならびに準備委員として八幡，富士，住
金，神鋼，大同，日鋼ならびに大学，金材技研から各1
名ずつ計8名を推薦することに企画委員会として決定。

研 究 委 員 会

第3回委員会 開催日：6月17日。出席者：今井委員長，他 20 名。

前回の研究委員会での各委員からの意見に従って今回より重要度の小さい報告事項や審議事項については委員長決裁とし審議は大きなテーマに絞って行なうことになった。そこで今回は「基礎共同研究会について」とテーマを絞り次のような事項について検討を行なった。

○基礎共同研究費の調達方法について

○来年度以降の新テーマの検討

○その他基礎共同研究会に対する要望

各委員からの意見が活発に出され資金調達方法については企画委員会，理事会にも相談することとなった。

また新テーマについては後日各委員のもとで検討していただくことになった。

編 集 委 員 会

第3回運営委員会 開催日：7月22日。出席者：荒木委員長，他 14 名。

1. 鉄と鋼アンケートについて

鉄と鋼アンケート結果に基づきディスカッションを行なった。特に抄録については今後も継続していくことになり，積極的に取りこんでいくことになった。具体的には和文会誌分科会で委員会を構成することになった。

2. 「鉄鋼製造法」編集委員設置会設置について

出版分科会より出版企画書，目次，委員の素案が提出

された。

第5回欧文会誌分科会 開催日：7月23日。出席者：橋口主査，他 17 名。

1. 5 件の論文につき審査報告がなされた。
2. 4 件の論文の投稿を勧誘することが決まった。
3. 委員追加の件：斎藤達雄君（川崎製鉄（株）技術研究所）が承認された。

第4回講演大会分科会 開催日：7月9日。出席者：草川主査，他 17 名。

1. 講演分類について

案を再検討，修正後決定。来春の講演募集より中分類項目を「講演分類」として使用。プログラム編成に使用する小分類は備考とともに実際に即し適宜加えると決定。

2. 講演概要集について

講演数の増加に伴って一冊には納まらず分冊にすることを考慮せねばならない時期なので，概要集の今後の方向もあわせて検討した。活発に討議されたが，今後さらに検討することとした。

第4回出版分科会 開催日：7月25日。出席者：佐藤主査，他 19 名。

1. 「鋼の熱処理」索引について

索引原稿を作成し，8月12日にゲラ刷の目通しを行なうこととなった。

2. 「鉄鋼製造法」について

今後のスケジュールにつき検討した。

刊行予定は 1971 年はじめとし，第 1 回編集委員会は今秋スタートすることを決定。

製 鋼 部 会

第43回部会 開催日：7月16，17日。出席者：池田前部会長，他 119 名。

東京の神田学士会館で開催した。

今回は脱硫・媒溶剤・合金鋼の溶製・連続铸造および脱ガスの問題を中心として研究発表が行なわれ，活発に議論された。発表件数は製鋼原料と操業に関する研究 11 件，造塊および欠陥防止に関する研究 8 件，脱ガスおよび連続铸造など新技術に関する研究 3 件，製鋼に関する計測技術の研究 2 件，計 24 件であった。

第 2 日目の午後は「純酸素転炉における鋼中空素の挙動」というテーマで，学術振興会との合同討議を行なった。学振側 1 件，部会側 2 件の発表があり，活発に議論され有益のうちに終了した。

第6回電気炉分科会 開催日：6月12，13日。出席者：松本主査，他 49 名。

6月12日，13日，名古屋地区（担当大同製鋼，中部鋼鉄）にて開催された。

第 1 日目は特別講演，共通議題の発表，第 2 日目は工場見学を下記のとおり行なった。

1. 特別講演 電気製鋼炉用耐火物について
東芝セラミックス（株） 丹羽庄平氏
2. 共通議題
 - (1) 電気炉の高電力操業について…………… 2 件
 - (2) 電気炉の集塵装置について…………… 7 件

(3) 電気炉用耐火物について…………… 8 件

(4) 文献紹介…………… 1 件

3. 工場見学

(1) 大同製鋼知多工場

分塊小型工場，製鋼工場

(2) 中部鋼鉄

第 2 製鋼工場，集塵装置，第 1 製鋼工場，
圧延工場

特 殊 鋼 部 会

第38回部会 開催日：7月2，3日。出席者：中野部会長，他 130 名。

第38回部会は大阪地区（住友金属）にて下記のとおり多数の参加のもとに開催された。

1. 特別講演および共通，自由議題の発表

(1) 特別講演…「カルシウム脱酸鋼の非金属介在物について」住金中研 藤野允克氏

(2) 共通テーマ「特殊鋼の品質と製造技術に関する研究」…各社より計 28 件

(3) 自由テーマ 1 件

2. 工場見学

住友金属の鋼管製造所および製鉄所の 2 カ所の見学を行なった。

鋼 管 部 会

第12回部会 開催日：6月13，14日。出席者：原田部会長，他 110 名。

第 1 日 神戸製鋼所

1. 共通議題

防錆について

2. 継目無管分科会報告

圧延伸ばし長さのパラッキについて

ビレットコンディショニングについて

3. 自由議題

鋼管押出プレスについて

4. 工場見学

神戸製鋼所神戸工場

第 2 日 久保田鉄工

1. 溶接管分科会報告

高周波溶接鋼管におけるメタルフロー

2. 自由議題

鋼管杭の消音工法について

3. 工場見学

久保田鉄工大阪工場

熱経済技術部会

第43回部会 開催日：7月1，2日。出席者：桑畑部会長，他 73 名。

1. 議題

(1) 経済的空気予熱装置に関する研究

前回各社からよせられたメタリックレキュペレーターアンケートのまとめが発表された。

(2) 工業窯炉のばい煙防止に関する研究

大気汚染防止法の施行に関する報告および焼結工場の排煙脱硫に関する神工試式ガス吸収装置の運転試験の中間報告がなされた。

(3) 高炉の熱勘定について

高炉熱勘定に対する各社の考え方を紹介した。

2. 工場見学

大阪製鋼(株)の高炉、焼結、動力工場を見学した。

3. 次回

今秋、東京にて開催する。

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会

第4回WG分科会 開催日: 7月14日。出席者: 三佐尾主査, 他 11 名。

絞り用(DQ), 構造用(SQ)の熱延, 冷延鋼板の規格について日本のコメントを審議した。

データシート部会

第5回部会 開催日: 6月10日。出席者: 田中部会長 他 14 名。

第4回部会の決定に従い高温引張のデータシートの作成を行なうことになったが, そのデータの集収については実験も行なわねばならないのでクリープ委員会に委託することになった。そこで必要データについて検討し次のごとくクリープ委員会に委託検討していただくこととした。

1. 鋼種および種類

溶接構造用圧延鋼材	5 種類
圧力容器用鋼板	5 種
ボイラー用圧延鋼板	6 種
高温配管用炭素鋼鋼管	4 種
高圧配管用炭素鋼鋼管	4 種

2. 試験温度 100°C ~ 500°C 50°C 間隔

第4回伸び値と試験片寸法効果分科会

開催日: 7月15日。出席者: 山岡主査, 他 7 名。

前回の分科会の決定に基づいて各社において 50 kg/mm² 級の耐候性材料と 60 kg/mm² 級材料についての追加試験結果が持ち寄られそれらをもとにして検討した結果, 前回以前に提出されていた手持ちデータも含めて整理し直し8月末の分科会にて再度集約結果の検討を行なうことになった。

第32回普通鋼分科会 開催日: 7月18日。出席者: 山岡主査, 他 15 名。

1. SS材, SM材の見直し検討(最終回)
2. SV材の見直し(改正案の審議)
3. SBC材の見直し(改正案の審議)

第19回特殊鋼分科会 開催日: 6月19日。出席者: 西主査, 他 13 名。

1. 工具鋼JIS改正に関する特殊鋼部会の要望事項の検討

昭和44年度に工具鋼JIS改正の原案審議を行なうこと

になったが原案審議に際し特残鋼分科会から下記事項を考慮していただくよう要望することになった。

(1) 炭素工具鋼……「種類の検討」のほか3項目

(2) 合金工具鋼……「記号と摘要区分の関連の検討」のほか4項目

2. データシート部会への要望テーマの回答

データシート部会の今後の取り上げるべきテーマとして当分科会より3テーマを要望していたが「構造用鋼の機械的性質」について設計参考として鉄鋼協会マニュアルを作る方針で進めることになった。

3. 特殊鋼規格体系について

一応体系ができ上がったので鋼管, 線材に関し問題があるがそれらを付記し工業技術院に答申することになった。

第17回鋼管分科会 開催日: 7月14日。出席者: 桑原主査, 他 20 名。

1. 鋼管ぐいJIS原案の標準寸法について

標準化委員会の鋼管ぐいJIS原案分科会で鋼管ぐいのミリラウンド寸法が採用される状態となつたため対応策につき協議した。

2. 特殊鋼規格体系に対する鋼管分科会の意見

すでに意見を提出しており標準化委員会幹事会で総合的結論が出されることになった。

3. 熱伝導用鋼管の引張強さの制限

熱交換器用鋼管について引張強さの上限を認める案をとりまとめた。

4. 低温用鋼管の衝撃試験

まず各国の規格の実態並びに低温用鋼管の実情を調査することとした。

5. STKM の C-ring Test

IIS 採用時期などにつき各社内部の意見をきくこととなつた。

第5回線材分科会 開催日: 6月30日。出席者: 水内主査, 他 17 名。

(1) 特殊鋼規格体系(案)

特殊鋼規格体系案の取り扱いについての主査会議の報告が水内主査よりあり, 線材分科会としての態度を検討した。規格案のうち線材関係の取り扱いについてはSWRHは一本化した扱い方を要望することにした。

(2) 線材JIS用途別体系について

幹事より線材の用途別規格の作成するについての問題点を説明した結果, 複雑な問題をかかえており検討には長時間を要するので用途別JISについては当面の現JIS見直しと併行して検討していくことにした。

(3) 現行JIS改正試案の検討

アンケートとりまとめ結果にもとづき改正試案を幹事より提出し討議した。SWRM, SWRH, SWRSそれぞれ鋼種および化学成分, 標準寸法, 寸法許容差などについて検討した。次回分科会において具体的な各社の意見を持ち寄りさらに討議することにした。

第6回線材分科会 開催日: 7月17日。出席者: 水内主査, 他 17 名。

現行JIS 改正案の検討

前回分科会に引き続き現行線材関係JISの見直し検討を行なった。

SWRM, SWRH, SWRM のそれぞれについて鋼種および化学成分, 標準寸法, 寸法許容差などについて討議した。

次回分科会においては, 自社もち帰りの検討事項をさらに討議しJIS改正案を作成できる見込みである。

第25回機械試験方法分科会, 第2回 WG1 分科会

開催日: 7月2日。出席: 者吉沢主査, 他 19 名。

1. ISO/R86 改正案の検討

前回, 内容の検討を行なったが, 今回は提出意見について議論し, 次の意見を出すことにした。

- (1) Stress rate の下限をもうける。
 - (2) 歪速度の規定が鋼材によつて異つていたので統一する。
 - (3) 下降伏応力の定義をかえる。
2. ISO/R89, R136, R144 の改正案の検討
改正内容を逐次検討したが, 特に問題点がないので, 意見を提出しないこととした。
3. 下記の資料について説明され, 議論した。
 - (1) 引張試験の歪速度における試験機の影響(訳)
 - (2) 鋼の降伏点および引張強さにおよぼす速度の影響(訳)
 - (3) 引張試験機の剛性について

第26回機械試験方法分科会, 第3回 WG1 分科会

開催日: 7月15日。出席者: 吉沢主査, 他 17 名。

1. 試験機のK値の測定に関する ISO 規格素案の検討

逐次内容の検討を行ない, 意見の提出は見合わせる事になった。

2. 応力疲労試験機の検定に関する ISO 規格素案の検討

内容の検討を行なった結果, 次の問題点が出され, 次回に委員以外の方にも出席いただき再度検討することになった。

- (1) 検定回数が多い。
 - (2) 修正係数の求め方が述べられていない。
 - (3) 許容精度がきびしすぎる。
3. 伸び値の換算に関する ISO 規格素案および γ 値の測定に関する ISO 規格素案の検討をおこなった。
4. シャルピー衝撃試験機のJISの内容を変更しうるかどうかが検討することになった。

第8回JIS 鋼管ぐいH型钢ぐい原案分科会

開催日: 7月2日。出席者: 吉田主査代理, 他 20 名

1. H型钢ぐいJIS 原案について

山岡幹事より整理案を提出(若干の修正のあと原案が確定した。

2. 鋼管ぐいJIS 原案の検討

3・1 項(品質)より審議を継続し, 標準寸法の項を除いて原案の審議を終了した。

次回は標準寸法について討議を行なう予定。

JMTR 利用委員会

第12回委員会 開催日: 7月8日。出席者: 長谷川委員長, 他 23 名。

今回は大洗のJMTRの見学会を兼ね原子力研究所大洗研究所にて委員会を開催した。

1. 当委員会照射計画材料の照射前試験データおよびミルシートの件

首記の件について一応データも出揃つたのでまとめて必要部数を原研に手渡した。

2. 原子力利用材料に関する外国文献2件について発表, 検討が行なわれた。

3. JMTR の見学

JMTR のカナルライニングなどからの水もれ発生のためライニング張替えなどを行なつていたが一応完了したのでJMTRの見学およびホットラボの見学を行なった。

資 料 委 員 会

第57回資料委員会 開催日: 7月8日。出席者: 草川委員長, 他 20 名。

1. Translation BISI の available については, ISI から送付してきた時点で購読各社に送付することにした。

2. 古いカタログについては, 次回までに整理規準を作成し, 不必要なものについては, 廃棄することにした。

3. 幾何級数的に増大する情報処理の手段として, 鉄鋼情報センター構想作成小委員会(仮称)を編成して, 構想案を作成することにした。

4. Translations BISI 後期更新にあたり, 継続購読するか, 各社に文書をもつてといあわせることにした。

5. 「鉄と鋼」索引カードの抄録については, 講演大会の申し込み書の要旨や, 投稿論文に添付される抄録を参考として事務局でまとめることにした。

新入会員氏名

(昭和44年5月1日～31日)

維持会員

日本アイビーエム(株)

正会員

佐藤 洋 富士製鉄(株)釜石
 福久 陽三 〃 〃
 千葉 忠之 〃 名古屋
 南 昭喜 〃 広畑
 齊藤 哲也 吉沢石灰工業(株)
 田中 元夫 〃 〃
 袋 孝一 〃 〃
 吉沢 兵左 〃 〃
 大森 義文 (株)日立製作所勝田
 後藤 正夫 〃 〃
 伊藤 允之 〃 多賀
 奥泉 忠 大同製鋼(株)渋川
 亀井 正男 大同製鋼(株)
 藤田 宣治 〃 星崎
 田鍋 一樹 住友金属工業(株)小倉
 林 慶三郎 〃 〃
 湊 隆 〃 和歌山
 安部 忠広 川崎製鉄(株)技研
 大矢 清六 〃 〃
 平山 恵一 八幡製鉄(株)技研
 渡辺 常安 〃 〃
 荒尾 潔 (株)神戸製鋼所明石
 石橋 達也 日本鋼管(株)京浜
 加藤 敏雄 日新製鋼(株)
 原 建一 三菱重工業(株)三原
 武内 朋元 金属材料技術研究所
 中野 恒男 日本ステンレス(株)
 直江津

浅井 繁 バブコック日立(株)呉
 鳥海 正義 東洋金属化学(株)
 井下 輝昭 大豊工業(株)
 金子 肇 興国鋼線索(株)
 小林 建夫 旭電化工業(株)
 山口 茂樹 (株)尼崎製釘所
 林 芳雄 日本トムソニ(株)
 多田 雅文 日本電工(株)
 川村 正一 興亜石油(株)
 小倉 次夫 東北大学金材研
 森山 徐一郎 京都大学
 村上 善一 愛媛大学
 宮崎 亨 名古屋工業大学
 佐藤 知敏 旭川工業高等専門学校
 長谷川 広忠 田無工業高校

学生会員

朝穂 隆一 早稲田大学理工学部
 遠藤 豪士 〃
 大橋 秀之 〃
 太田 久司 〃
 奥住 文徳 〃
 片瓜 有ニ 〃
 木下 肇 〃
 君塚 光文 〃
 佐野 庄平 〃
 桜谷 和之 〃
 志賀 信道 〃
 四方 英雄 〃
 潮平 秀樹 〃
 田中 勉 〃
 田村 芳昭 〃

高桑 明 〃
 高杉 篤美 〃
 高田 紇 〃
 竹内 純一 〃
 竹下 一彦 〃
 武田 克彦 〃
 武部 貴文 〃
 徳山 幸夫 〃
 中島 伸也 〃
 中村 準一郎 〃
 福島 洋二 〃
 福島 佳春 〃
 三井 譲治 〃
 三ッ橋 章雄 〃
 宮永 正義 〃
 森脇 耕三 〃
 渡会 正和 〃
 岩佐 弘司 名古屋大学工学部
 城田 良康 〃
 海老原 宏二 東京工業大学大学院
 修士課程
 嶋 宏 大阪大学工学研究科
 帆足 敬二郎 九州工業大学
 浅井 公屋 武蔵工業大学大学院
 白川 雅彦 職業訓練大学校
 関永 宏一 鉄鋼短期大学

外国会員

William F. McDermott (U.S.A.)
 Young Ku Yoon (Korea)

(昭和44年6月1日～30日)

正会員

内田 俊一 八幡製鉄(株)
 東京製造所
 原田 健一郎 〃 〃
 大賀 只則 〃 八幡
 本田 三津夫 〃 〃
 田岡 忠文 〃 戸畑
 浜口 千代勝 〃 〃
 小山 政夫 〃 君津
 上月 静雄 〃 〃
 井内 徹 〃 東研
 児玉 牧夫 〃 堺
 渡辺 義広 〃 光
 川崎製鉄(株)千葉
 石崎 隆士 〃 〃
 久野 忠一 〃 〃
 久保 武夫 〃 〃
 谷田 巳隋 〃 〃
 大島 英男 〃 水島
 高木 一 〃 〃
 畑 俊彦 〃 〃

井上 隆 富士製鉄(株)室蘭
 大谷 三郎 〃 〃
 轟 理市 〃 中研
 古川 洸 〃 〃
 松田 常美 〃 本社
 長野 修二郎 〃 名古屋
 坂本 広志 (株)日立製作所日立
 土屋 正利 〃 〃
 平根 輝夫 〃 〃
 森川 穰 〃 〃
 飯泉 孝雄 〃 亀有
 檜山 良司 〃 〃
 中原 猛 (株)神戸製鋼所中研
 山田 二郎 〃 〃
 高嶋 修嗣 〃 加古川
 福田 正彦 〃 〃
 樹下 忠義 三菱重工業(株)京都
 橋爪 弘道 〃 〃
 松屋 克己 黒崎窯業(株)技研
 越智 淑行 〃 〃

徳原 照彦 日新製鋼(株)呉
 渡辺 宜博 〃 〃
 白川 欽彦 住友金属工業(株)
 和歌山
 成田 正尚 大同製鋼(株)中研
 藤井 基弘 日立造船(株)
 吉野 秀夫 日本冶金工業(株)川崎
 磯部 賢太郎 日特金属工業(株)
 高木 政明 特殊製鋼(株)
 村石 実 小宮鑄工(株)
 加藤 恵之 山陽特殊製鋼(株)
 野口 健 住友金属鉱山(株)
 森川 平吉 日本鉱業(株)
 安原 宏 同和精鉱(株)
 真鍋 政勝 服部時計店
 石橋 和久 富士機械工業(株)
 高山 哲雄 (株)不二越
 野島 静雄 三菱金属鉱業(株)
 黒田 正男 松下電器産業(株)
 前田 隆男 日本ロール製造(株)

杉下 和義	日本ウェルディング・	学 生 会 員	岩瀬 伸嘉	工学部
	ロッド(株)	脊名 宗春	鈴木 康成	鉄鋼短期大学
堀切 清隆	品川白煉瓦(株)	河野 富夫	山田 茂	〃
岡崎 政雄	東邦亜鉛(株)	新海 至	永幡 勉	京都大学大学院
黒石 一郎	青森県金属材料試験所	鈴木 健吉	神藤 宏明	大阪大学工学部
石島 健治	〃	都築 仁	的場 文男	愛媛大学工学部
高橋 務	金属材料技術研究所	服部 重夫	外 国 会 員	
岡村 喜弘	〃	出口 幹夫	朴 俊玟	(韓国)
小林 睦弘	東京工業大学	二宮 嘉和	Department de Engenharia	
中村 雅男	名古屋大学	三好 庸夫	Metalurgica, Escola de	
室井新一郎	山梨大学	加藤 理生	Engenharia da Universidade	
瀬川安一郎	富山工業高等専門学校	片桐 望	Federal de M. Gerais (Brazil)	
田中 平	高知東工業高校	中村 皓一		

正 誤 表

- 論文題目：液体 PbO-SiO_2 , PbO-GeO_2 , $\text{PbO-P}_2\text{O}_5$, $\text{PbO-B}_2\text{O}_3$ および $\text{PbO-SiO}_2\text{-GeO}_2$ 系の電気伝導度
- 著 者：斎藤 宏・後藤和弘・染野 檀
- 掲載号頁：「鉄と鋼」第 55 年 (1969) 第 7 号, p. 539~549

Table 1. Activation energy of electrical conductivity of the binary systems at 90 mol % PbO (548 ページ)

System	PbO mol %	E_a (kcal/mol)	E_a (kcal/mol)
PbO-SiO ₂	90	9.8	
PbO-GeO ₂	90	9.8(誤).....→	8.8(正)
PbO-P ₂ O ₅	90	9.5	
PbO-B ₂ O ₃	90	9.7(誤).....→	7.7(正)

IFAC Kyoto Symposium on Systems Engineering Approach to Computer Control

明年8月11日~14日 京都において上記シンポジウムが開催されることになりました。これに関する First Circular が出来ておりまので、論文提出および参加御希望の方は返信用封筒同封の上、下記宛御請求下さい。

記

日 時 1970 年 8 月 11 日 ~ 13 日
場 所 国立京都国際会館
内 容

1. Methodology for system identification and optimization
2. Uncertainty in systems and stochastic processes
3. Adaptability of computer control
4. Computer aided control in industrial and other systems
5. Computer aided system design methods
6. Economics of computer controlled systems

申込締切 論文要旨 1969年10月31日

論 文 1970年1月31日

申 込 先 IFAC京都シンポジウム委員会

京都市左京区吉田河原町14 日本自動制御協会気付